

第246号
2009年10月 1日
行 富山市内幸町3-22 (菅谷ビル4階)
新日本スポーツ連盟 富山県連盟
電話 (FAX) 076-441-0541
発行責任者 林 憲彦

09年のサマースポーツセミナーは、8月29・30日、石川県内灘町のサイクリングターミナルで開催されました。

北は宮城県から南は九州福岡県まで、120名余の参加でした。

富山県からは部分日程の参加を含め10名に達し、地元石川県に次ぐ参加者でした。

1日目は「平和へのメッセージ～内灘闘争から何を学か～」と題して昉昭三さんのお話し。

1日目の午後からはスポレク交

サマースポーツセミナー
in 石川県内灘

流でウォーキング・サイクリング・テニス・水泳などで汗を流しました。

富山県の仲間はウォーキングに5名、サイクリングに4名参加しました。

夕食はバーベキューとビールの懇親会で、全国各地の仲間と入り交じり懇親し、新たな仲間も得たようです。

2日目は「スポーツ傷害とリコンディショニング～生涯現役であるために～」と題して、山路俊介さん・「わたしは あきらめない～大怪我を乗り越えて得たもの～」と題して板倉美紀さんからお話しをしていただきました。



左：ウォーキング

右：富山からの参加者（撮影に間に合わなかった人もいます）



2009年サマースポーツセミナーに参加して



富山ハイキングクラブ・富山ウォーキングクラブ 宮森 幸子

今回、2009年サマースポーツセミナーのスポレク交流でウォーキングの部（砂丘地に内灘闘争の痕跡をめぐる）に参加しました。

砂丘地に鉄板を敷き、内灘駅から砲弾をトラック輸送した林帯遊歩道を通り、射撃指揮所や弾薬庫等……最後の着弾地観測塔などは戦争の痕跡を実感しました。

その実射テストを行うために、内灘砂丘地が強制接収された時「金は一年、土地は万年」のスローガンを掲げ、住民達が反対運動に立ち上がり、地元のおかか（婦人）たちが着弾付近などに連日座り込んで抵抗した事などの話を聞いて興味深く見学してきました。（歩行時間4時間・約10Km）



私とサマースポーツセミナー

理事 林 憲彦



私が「新体連の中央スポーツ学校」（かつて新日本スポーツ連盟は新日本体育連盟・サマースポーツセミナーは中央スポーツ学校と称していた）に関わったのは記憶をたどれば、野沢温泉近くの「北竜虎」、「開田高原」「黒姫」だったろうか、

私はそのころ低迷している富山県連盟を何とかして元気づけようと考えた一策がこの「中央スポーツ学校」の招致でした。

それまで「中央スポーツ学校」は長野県下の保養地などを順繰りに開催する、それはそれで結構意義あるものでした。

戸隠で和食事務局長（現理事長）に富山での開催をおそろおそろ申し出たところ、それも面白い企画だと賛同を頂き、全国理事会の承認を待って、「吉平衛」を宿舍とし、大山町文化センターを会場にして開催しました。

これ以降、全国各地での開催となり、かつて開催していた長野県からは「もっていかれちゃった」と嫌味も言われましたが、今日的に考えると、良かったのではないかと考えています。

それからは富山県連盟も元気になりましたし、開催した各県はそれなりの人的な財産が残ったと思います。

今度の石川での開催は北陸で2回目となりますが、こういった効果が徐々に現れるよう期待しています。

理事・代議員の定数については各クラブに連絡します。	期日	十一月二十九日（日）	午後一時半～	第二九回 定期総会
	会場	富山県民会館 612号室		

サマー・スポーツセミナーに参加して

理事 山田 格

当日は仕事の予定が入っていたのが朝になってキャンセルとなり、出発直前の林さんの車に便乗し、急遽日帰り参加ということで金沢の内灘町へ向かう。

会場で受け付けを済ませ、全国からやってきた参加者の中に、顔見知りの人たちもあり、久しぶりの挨拶などを交わす。

午前の部の講演「平和へのメッセージ～内灘闘争から何を学ぶか～」を講師の筋(あざみ)昭三さんの話を聞く。

内灘砂丘地帯は午後からのウォーキングコースでもあり、私自身40数年前によく遊びに行った所なので関心を持って聞きました。

内灘闘争は昭和27年にアメリカ国防省が小松製作所に砲弾を造らせ、その性能を試すため内灘村の砂丘地帯を指定。国会閣議で抜き打ちで「内灘接收」を決定。内灘村村議全員が条件付きで了承。それを知った村民たちが反対行動を起こしてデモや座りこみ小屋など作って113日間にわたって繰り広げられた闘争行動で、この闘争が発端となり、沖縄返還や全国の米軍基地などの反対運動に発展していった。

午後からのウォーキングは、22人が様変わりした内灘町を「風と砂の館」(民族資料館)で内灘闘争の写真や資料などを見学し、内灘海岸の「砲弾射撃指令所」までバスで移動、砂丘の遊歩道を着弾地観測塔までの約10キロをウォークしました。指令塔や観測塔、弾薬庫などは3年10ヵ月にわたって使用されたコンクリート製の建造物が50年以上経た現在も残されており、年間6万発ものテスト射撃が、旧日本軍の砲兵隊員経験者によって実施していたことを知りました。



2009年新日本スポーツ連盟サマー・スポーツセミナーに参加して…

理事 田村隆文

◎ 講演(平和へのメッセージ 内灘闘争から何を学ぶか?)を聴いて

どうせ眠くなるような退屈な話だろうとタカをくくっていた…私の両隣では、既にこっくりし始めている人が…。つられて自分も気が遠くなりだした。ところがである。私の眠気を吹き飛ばすような言葉が飛び込んできた。「内灘の砂丘で砲弾の試射開始!」と聞いて…びっくり。まさしく寝耳に水の話である。内灘町といえば金沢東ICから車で北に約15分位である。従って、私の地元の富山市からそう遠くない距離だ。そんな場所に軍事基地が?まさか…?



さて「内灘闘争」とは何か?どうして起こったのか?..それは朝鮮戦争勃発(1950年6月)の2年後のこと。アメリカ国防省が小松製作所、神戸製鋼に(朝鮮戦争で使う)155

りゅうだん
 榴弾) 65万発の大量発注したことに起因する。そしてその砲弾の実射テストを行うために、内灘村の砂丘地が「強制接収」され、それに対して生活の場と安全を奪われた住民が、激怒し反対運動を起こしたのが発端だった。間もなく、各種支援団体が続々とこの運動に加わり始め、結果的には全国的な闘いにまで発展していったという。これは終戦後間もない時期に起こった国内では初めての基地反対運動であったという。

情けないかな、このように大きな闘争なのに（私には）正直いって、初耳だった。ところが、その反対運動にも拘わらず、翌年（1953年3月）には、ついに砂丘地での（米軍による）砲弾の実射が強行されたというから、驚きである。砂丘地に打ち込まれた砲弾数が（1年余りで）6万発というのは、半端な数ではない。さらに聞けば、地元のおかか達（婦人）がそれを阻止するために、着弾地付近などで（1年あまり）座り込み運動して抵抗を続けたという。…（自分達がやらねば誰がやる）と、子孫の為にも、捨て身で闘う彼女らの生き様…その決意を思うと胸が詰まる。（彼女等は）平和とはこうして勝ち取るものよ…と（私達に）メッセージを送っているような気がした。ところで、その内灘闘争に、医者（内灘診療所々長）として実際に加わり、おかか達から絶大の信頼を受けていたのが、本日の講師の筋（あざみ）昭三氏であると聞いて、2度びっくりしました。



午後からは、歴史的な闘争の痕跡を巡るウォーキングに参加した。出発点は内灘海水浴場の片隅にひっそりと立つ、かつての射撃指揮所（堅固なコンクリート造りの塔）であった。ここから（撃ち込まれた）砲弾の着弾地観測塔まではおよそ4kmの道のりだ。しばらく砂浜を歩き、間もなく林帯遊歩道に入った。すぐ傍を能登有料道路が延びている。途中恐竜公園にも寄って一休みする。

この頭上を砲弾が飛んでいたとは想像も出来ない。また、しばらく歩いて雑木林を抜けるとコンクリートで固められた（トーチカのような）観測塔が突如、姿をあらわした。不気味な感じがするが、撤去されること無く今も残されている。ここで（私達は）確かな闘争の痕跡を確認したのだ。ここは本日の会場のサクリツ・ターミナルから、そう遠くないことを考えると…つくづく現在の平和の有り難さを実感した。僅か10km足らずの道のりだったが、実り多い「内灘闘争」の探訪ウォークになった。

翌日は、板倉美紀氏と山次俊介氏の講演がありました。板倉氏はバルセロナ・オリンピック代表選手で、競歩では日本の第一人者です。その彼女が練習中にトラックに右半身を轢かれるという大変な不幸に見舞われた。常人ならば、この時点で競技人生を諦めていた筈である。しかし彼女は絶対に諦めなかった。持ち前の不屈の精神で再起不能と思えた大けがを乗り越えて、現役選手への復帰を果たされたのだ…板倉氏の話聞く内に、どういうわけか、内灘村のおかか達の生き様と重なって見える。

同じように、スポーツ障害とリハビリについて講演された山次氏は…そういう運動選手たちを見守り、ケガを最小限に食い止める指導（傷害の予防、治療の仕方）しておられる。これまた、舩昭三氏とダブって見えるから不思議だ…これは余りにも穿った見方だろうか？ウォーキングの途中、砂丘にポツンと一輪のハマナスの花が咲いていた。遠くでは、若者達がサーフィンに興じている。なぜか今も、この風景が、私の心に焼き付いて離れない。

サマースポーツセミナー i n 石川・内灘に参加して

理事 荒井英治

2日間の3人の講演はどれも中身の濃いもので、最後まで飽きることがなかった。

このような講師陣を選んだ、地元石川の実行委員会の人たちに感謝。

特に山次俊介氏の『スポーツ障害とそのケア』の講義は人間の骨格、筋肉の構造を踏まえて分かり易く話された。腰痛などの障害が、過去のちょっとした足首の捻挫などを、十分な治療をせずに放置しておいたことで、体全体の骨格筋のバランスが崩れ、それが習慣化して固定化した歪みが原因であるとの話には納得。



とても役に立つ内容だったので、デジカメのビデオ機能を使って一部録画したが、幸いに全国連盟でDVD化しているそうなので是非手に入れて、視聴したいし、自分のクラブの人たちにも見せてあげたいと思っている。

《自分が担当したサイクリングの反省点》

事前に試走や、歴史や地理を勉強して、案内役を務めたつもりだったが、失敗や心残りな点があったのでそれを書き留めたい。

- 1、サイクリングには私を含めて10人の参加があった。自転車は、私と石川県連の藤田さんとで5台を用意し、それと持参組の1台、計6台。不足分4台はサイクリングターミナルの貸出用自転車を使用したのだが、その内の2台が、チェーンが何回もはずれ、2人の方には不愉快な思いをさせてしまった。事前に検分した時はサイズが小さいことは確認済みだったがチェーンが外れ易くなっていることまでは思い至らなかった。サイクリング中のチェーン外れは楽しい気分を損なうので、レンタル自転車でサイクリングを行うときは細かな点検が必要だと思った。
- 2、 予定のコースを外れて走行した区間が一箇所あった。
- 3、 事前に資料を配布しておけば、金沢・内灘の地理・歴史をイメージしながらサイクリングできてもっと楽しかったのではと、心残りがある。

いくつか反省点はあったが、8月の気候としてはそれ程暑くもなく、銭屋五兵衛記念館でゆっくり見学できたし、『ヤマト醤油』では醤油ソフトクリームも味わえたし、何よりも一

番心配した交通事故が無かったので、まあまあの出来だったのではと思います。

【サマースポーツセミナー i n 内灘】に参加して

富山県スキー協・理事 長谷川 博



今回のセミナーは久しぶりの参加となりました。全国スポーツ連盟が夏の行事として開催していたものを、各県が中心になってやろうと決め、その第1回が富山県で開催されてから久しぶりに隣県の石川県での開催となり距離的に近いので参加することにしました。

8月29日（土）～30日（日）の2日間、石川県の内灘サイクリングターミナルには、全国各地（北は宮城県・南は福岡県）から120人余りが参加しました。

1日目の昼食後はそれぞれが希望したスポーツで楽しみました。私は30Kmのサイクリング（私はサイクリングと思っていたのですが、ポタリングだそうです）に参加、風を切ったポタリングはつらいところもありましたが、すがすがしい気分になりました。ポタリングの汗を流した後は、バーベキューで全体交流楽しく・美味しい2時間余りでした。（もちろん、その後の交流を深めたのは言うまでもありません）。

2日目は、山次俊介講師と板倉美紀さんの講習でした。久々のサマースポーツセミナーでしたが、すべての内容が濃く2日間が短く感じられました。

また、石川スポーツ連盟の皆さんのいろんなところでの活躍が目立ちました。

なお、私が参加した「ポタリング」の責任者は富山県連盟の荒井英治さんでした。大変ご苦労さまでした。有り難うございました。

8・9月号でお知らせしました

「吉久と新湊内川巡り」は荒天のため中止になりました。

同じ内容で11月14日（土）に再度実施します。

2009年サマースポーツセミナーin石川・内灘に参加して

富山HC・理事 山村 勇

久しぶりに、スポーツ連盟のサマースポーツセミナーが北信越ブロック内で取り組まれること、隣県の石川でしかも内灘町でとロケーションがよかったこと、さらに県連理事会で最大限に協力しようとの決定があったことなどで富山HCからも5名で参加することにした。

到着してすぐの第1講、筋 昭三さんの「平和へのメッセージ～内灘闘争から何を学ぶか～」では、50年以上も前に富山の「米騒動」「ばんどり騒動」に匹敵する抵抗運動があったことにビックリ。しかもそれがなんと軍事基地反対闘争だったと聞いて二度びっくり。富山と同様、保守（自民党）王国といわれる石川県でこのような歴史があったことに少々、印象を改めねばと思ったしだいである。

一日目午後からのスポレク交流には、会場が「内灘町サイクリングターミナル」だからというわけではなかったが、かねてよりやってみたかった「サイクリング」に挑戦した。ロードレース仕様の自転車に（車輪の幅が細い！）はじめて乗ってみた。最初不安定な気がしてちょっと心配だったが、程なく慣れてしまえば難なく乗れた。上天気の前、海からの潮風を受けながらの往復35キロのポタリング。途中、「ヤマト醤油」でのしょうゆソフトを賞味したり（初体験！）、折り返し地点の「銭屋五兵衛資料館」では休憩をかねて、内灘ゆかりの歴史上の偉人を偲んだりと盛りだくさんだった。富山の荒井さん



さんが何度も試走してこのコースを設定されたとのこと、そのご苦労に感謝、感謝！。

心地よい疲れとともに夕方からのバーベキュー&歌声交歓会が大いに盛り上がったのは言うまでもない。

2日目、山次 俊介氏の健康科学、運動生理学に根ざした「スポーツ障害とリコンディショニング」についての講義からは得るものがたくさんあった。板倉 美紀さんの実

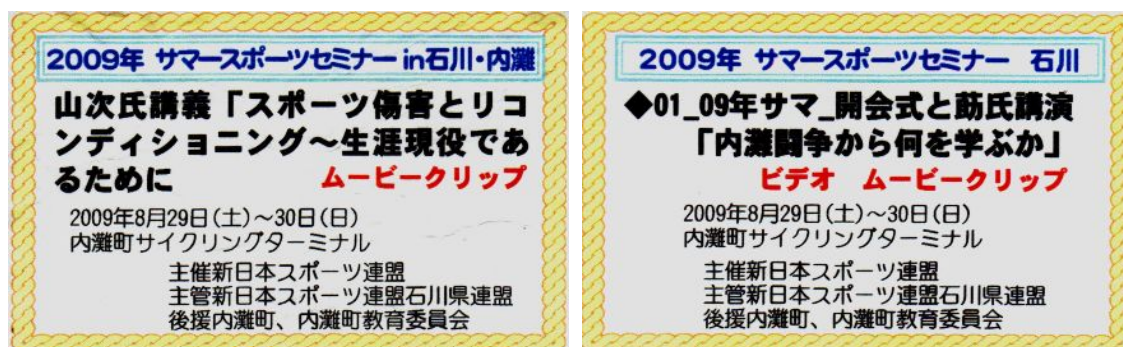


体験にもとづく話も実に感動的だったし、競歩という競技への理解も深まったように思う。

最後に今回のスポーツセミナーの取り組みを支えた新日本スポーツ連盟石川県連盟の尽力に拍手を送りつつ、今後の連盟の隆盛を祈りたいと思う。

以上


サマースポーツセミナーの講演のDVD



希望の方にコピーして頒布します。

1枚100円、送料100円でおわけしますので希望の方は 林 までお申し込み下さい。(TEL0766-82-6035)

北信ブロックスキーフェスティバルの日程が間違っていましたので再掲します

2010シーズン スキー協行事計画		
開催期日	全国スキー協	北信ブロック
2009/12/5・6	中央研修会・志賀熊ノ湯	
2009/12/12・13	山スキー研修会・志賀熊ノ湯	
2009/12/19・20		指導員研修会・初滑り・志賀熊ノ湯
<u>2010/1/16・17</u>		北信ブロックスキーフェスティバル・志賀高天が原
2010/1/9~11	山スキーリーダー養成・研修会／	先月号は間違っていました。お詫びして訂正します
2010/2/13・14	スキー協CUP・スーパーG2連戦／よませ高原スキー場	
2010/3/5~7	全国スキー競技大会・戸狩	